世界の人びとのための JICA基金 ニュースレター 2023

世界の人びとのためのJICA基金とは

「世界の人びとのためのJICA基金」では、市民の方々に寄附を通じて国際協力に参加いただき、その寄附金を財源にNGO/CSOなどが行っている国際協力活動を支援しています。
寄附を通じて皆様の想いを途上国の人びとに届け、平和で豊かな世界の実現に向けてともに貢献していきたいと考えております。

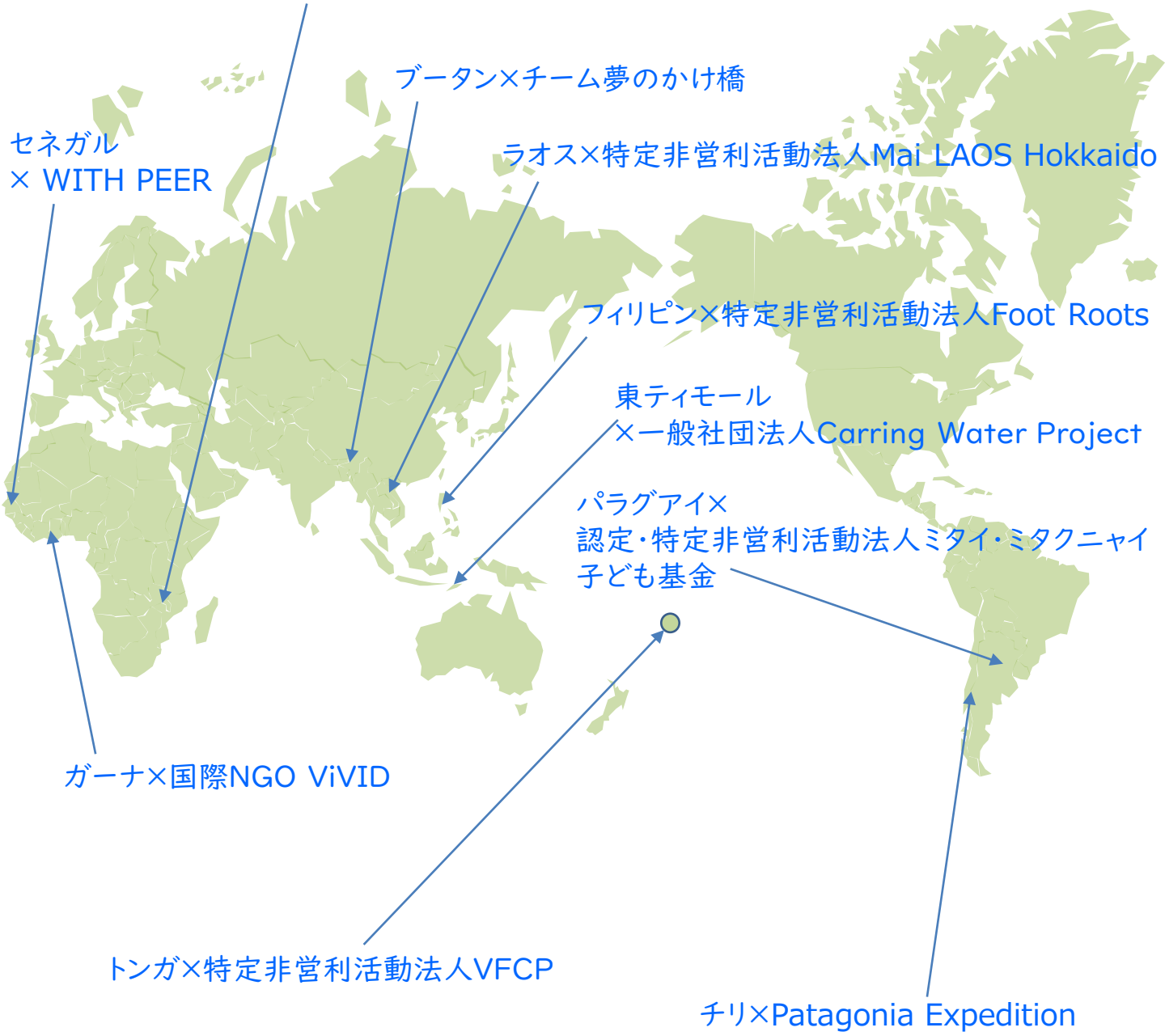
2015年9月、ニューヨーク国連本部において「国連持続可能な開発サミット」が開催され、193の加盟国によって「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されました。このアジェンダでは、「誰一人取り残さない」ことを理念とし、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し持続可能な社会を実現するための重要な指針として、17の開発目標SDGs (Sustainable Development Goals) を設定しています。
SDGsを達成するためには、一人ひとりに焦点を当て、これを、貧しい国、中所得国、豊かな国のあらゆる国々で取り組むことが必要です。そのために、民間企業や市民社会の役割が益々高まり、あらゆるステークホルダーが連携すること（グローバル・パートナーシップ）も求められています。

JICAはSDGsの達成に貢献すべく、さまざまなステークホルダーとの連携を強化し活動に取り組んでいます。その一つが「世界の人びとのためのJICA基金」（JICA基金）です。

2022年度JICA基金活用事業実施団体の活動国

対象国×実施団体名

2022年度も、多くの個人や法人・団体の皆様の寄附により、貧困や飢餓に苦しむ人びとの生活向上、教育の機会の提供等において、23件*の活動を支援することができました。皆さまの温かい想いに深く感謝申し上げます。23件のうち、ニュースレター2023では2021年度に採択しました11件の活動をご紹介します！



*2022年度に実施しました他12件の事業は11ページをご参照ください。

JICA基金活用事業の紹介

（通常枠*）

団体名：チーム夢のかけ橋／活動国：ブータン（P5）
事業名：ブータンでの脳卒中デイケアセンター運営
実施期間：2022年4月-2023年1月

団体名：特定非営利活動法人 VFCP／活動国：トンガ（P5）
事業名：トンガ王国・ババウ島の学校に安全な水とトイレを
実施期間：2022年4月-2023年3月

団体名：認定・特定非営利活動法人ミタイ・ミタクニャイ子ども基金／活動国： パラグアイ（P6）
事業名：パラグアイ伝統工芸品ニャンドゥティ・ブランディング事業
実施期間：2022年4月-2023年3月

団体名：一般社団法人JA-Net／活動国：マラウイ（P6）
事業名：マラウイ農地土壌改良のための牛糞を活用した堆肥づくり法の定着
実施期間：2022年7月-2023年7月

（チャレンジ枠*）

チャレンジ枠は、応募時点で活動実績が2年未満の団体が対象

団体名：特定非営利活動法人Mai LAOS Hokkaido／活動国：ラオス （P7）
事業名：ラオスの人々への「ツボクサ」を用いたハーブ製品加工技術指導のためのワークショップ ～基礎編～
実施期間：2022年4月-2023年4月

団体名：特定非営利活動法人FootRoots／活動国：フィリピン（P7）
事業名：フィリピン・セブの都市貧困地域でのコミュニティリサイクルへの挑戦
実施期間：2022年8月-2023年8月

団体名：一般社団法人 Carrying Water Project／活動国：東ティモール （P8）
事業名：東ティモール村落部の給水施設における住民による主体的な維持管理への意識向上プロジェクト
実施期間：2022年6月-2023年3月

団体名：Patagonia Expedition／活動国：チリ （P8）
事業名：Hands of Patagonia
実施期間：2022年4月-2022年3月

団体名：Project Sally／活動国：マラウイ （P9）
事業名：Project VOICE
実施期間：2022年5月-2022年11月

団体名：国際NGO ViVID／活動国：ガーナ （P9）
事業名：ガーナ共和国セイチェレ村「村おこし」事業2022
実施期間：2022年5月-2023年3月

団体名：一般社団法人WITH PEER／活動国：セネガル （P10）
事業名：セネガルにおけるスポーツを通じた障害者のエンパワメントと社会参加促進活動
実施期間：2022年10月-2023年6月

＊2023年度募集より、通常枠とチャレンジ枠は統合されました

ブータンでの脳卒中デイケアセンター運営

活動国：ブータン
団体名：チーム夢のかけ橋

●活動報告

ブータン脳卒中協会（Bhutan Stroke Foundation：以下、BSF）は、近年増加している脳卒中後遺症患者を支援するために設立された現地NGOであり、CSR認可されています。ブータンでは、特に脳卒中に罹患する患者数が激増していますが、退院した患者の後遺症に対するリハビリテーションや在宅ケアは皆無です。ブータン政府においても人材や予算が不足しているため、公的支援がほとんどなく、スタッフの専門的な研修の場も乏しいのが現状です。私たちは、ブータン脳卒中協会より、脳卒中後遺症のある方々、および支援スタッフに対する人材育成の協力要請を受け、活動をはじめました。主な活動内容は、次のとおりです。

A) オンライン技術講習会

竹内理子・藤原茂などの講師によるビデオカンファランスZOOM会議。健康トリム（自主トレーニング機器）や脳卒中のデイケア・自宅でできるリハビリなどの技術講習会。

B）ベーカリー職業訓練

今期は、ベーカリー専門家を雇用し、職業訓練を継続・運営しました。DPO(障がい者機構)より、ベーカリーに必要なオーブンや、ケーキの陳列冷蔵庫などが正式にBSFに移譲され、職業訓練と小さな店舗スペース、屋外カフェがオープン。脳卒中後遺症の障がい者等が、本事業の職業訓練を通じて実力を高め、生産したパンやクッキーの販売を始めました。ベーカリーショップは、現在、障がいを持つ彼ら自身で運営しています。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

JICA基金を通じて、新しく生まれたブータン脳卒中協会が稼働し、小さな規模ではありますが、障がい者が社会参加でき、自ら収入を得ていく道が軌道になんとか乗りました。多くの脳卒中による半身不随や言語障害を持つ人々は、かつては家にこもり、その家族も共に社会と断絶され、孤立し、無力感や鬱を感じていました。この事業を通じて、社会参加し、収入も得られるモデルができあがりました。ほんとうにありがとうございました。

脳卒中後遺症をもつ人たちが、パン　ケーキ　クッキーをつくり、販売して社会参加・収入を得ています。

トンガ王国・ババウ島の学校に安全な水とトイレを

活動国：トンガ
団体名：特定非営利活動法人 VFCP

●活動報告

トンガ王国のババウ島にある学校では、設備不良や衛生環境が原因で子どもたちが亡くなる事態が起きていました。そこで、取水設備及びトイレの改修とメンテナンスをしながら、学校の設備を定期的にメンテナンスを行うことで、子どもたちが安全な水を飲み、清潔なトイレを使えるように、資料の配布や指導を行いました。このプロジェクトによって、衛生環境に関する意識が高まりました。また、この活動では、住民たちが自発的に改善に取り組めるように、下地作りに重点を置きました。

ゼロコロナ政策による規制や、海底火山噴火による通信や物流の途絶、物価の高騰など、様々な困難がありましたが、非常時でも効果的に活動を続ける工夫や、住民との連携強化により、結果を残すことができました。

周知の一環として、日本のNFTプロジェクト「APP PANDAO」との共同イベントを開催しました。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

トンガ王国では、川や湖が無く、ほとんどの学校や自宅で、建物の屋根から集めた雨水を、飲み水を含む生活用水として使います。

今回実施することができた学校においては、子どもたちが使用する集水経路の清掃を行うとともに、故障や破損、設計ミスなどで、今まできちんと使用できなかったレインタンクやトイレ、洗面台の修繕や改修工事などを行い、劇的な改善を実現できました。

これからも、石鹸で手を洗う習慣の周知や、住民主体で子どもたちに衛生的な環境を提供し続ける仕組みつくりと並行して、プロジェクトを継続していきたいと思います。ご支援くださった皆様に心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

使用可能になった洗面台で手洗いする生徒

パラグアイ伝統工芸品ニャンドゥティ・ブランディング事業

活動国：パラグアイ
団体名：認定・特定非営利活動法人ミタイ・ミタクニャイ子ども基金

●活動報告

南米パラグアイ共和国には、伝統工芸品の一つにニャンドゥティ（Ñandutí）という刺繍があります。ニャンドゥティは、パラグアイの先住民族の言語グアラニー語で「蜘蛛の巣」を意味します。繊細な刺繍であり、2019年にはパラグアイ国家無形文化遺産に指定されました。その美しさから、近年は海外でも注目を集めています。しかし、販売価格が低いことから、作り手の数が減少しています。また、作り手の方々には、仕上げ技術が不足していたり、ブランディング手法の知識が備わっていなかったりと、色々な課題がありました。これらの背景から、本基金は、ニャンドゥティ作り手の方々の技術力向上と、商品ブランディングを目的として、イタグア市で、2022年6月より2023年3月にかけて、3期にわたる講習会を実施いたしました。参加者は、ニャンドゥティの基礎的な作り方から応用まで学び、さらにはニャンドゥティを切り取り加工する技術、アクセサリーへの加工技術などを学びました。その後、参加者は、フェリア（朝市）などにおいて、自らの製品を販売してきました。今回の講習会の実施に際し、イタグア市より多大なる協力を頂きました。公的機関と連携した活動を行うことができたことから、持続可能性の担保にもつながりました。心より感謝しております。

講習会で参加者がニャンドゥティ制作に真剣に取り組んでいる様子

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

本事業では、第三期に渡る講習会を実施しました。講習会には、のべ113名の女性たちが受講生として参加し、のべ92名が所定のプログラムを修了し、本基金と市役所との連名で、修了証書を授与しました。計画していた直接受益者数のべ40人に対して、２倍以上の方々が受講され、達成率は283％になりました。多くの直接受益者を出すことができ、パラグアイ伝統工芸品の作り手の育成とブランディングに貢献できたと考えます。プロジェクト参加たちからは、「引き続きこのようなプロジェクトをして実施ほしい」、「このような機会を与えてくれたことに感謝している」といったお声をいただきました。ご支援いただきました皆様方には心より感謝申し上げます。本基金は、引き続きパラグアイにおける活動に尽力して参ります。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

第一期講習会修了式の際の写真

マラウイ農地土壌改良のための牛糞を活用した堆肥づくり法の定着

活動国：マラウイ
団体名：一般社団法人JA-Net

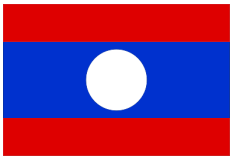
●活動報告

本活動により導入した20頭の母牛を、地元の農家グループとともに飼育しています。飼育方法は、定期的なオンライン会議を活用して、現地カウンターパートに伝えました。2022年9月には、日本チームが現地を訪問し、活動の進捗状況の確認、畜産技術・堆肥づくりについての技術供与などを行い、さらに良質な堆肥ができるように支援しました。同時に、メイズの収穫量調査・土壌調査のため、対象地域の各農家のデータ測定を行いながら、良質な土壌づくりに取り組み、更なる生産量向上を目指しています。世界的な物価高により、マラウイにおいても化学肥料の高騰が続いており、農家への負担が非常に大きくなっています。そのような状況の中、堆肥を活用することは、持続可能な農業をする上で非常に重要と考えています。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

物価高による影響は、途上国であるマラウイにおいては、より影響が甚大であり、人々の生命にも関わる問題となっています。国民のほとんどが農業従事者であるマラウイにおいて、主食であるメイズを安定的に収穫できるかは、生命線であり、化学肥料への依存は、地力の低下による中長期的な収穫量の低下、肥料価格の高騰による家計の圧迫など、深刻な課題を引き起こします。持続可能な地域を目指す上で、堆肥を活用した農業は必須だと考えています。今回、JICA基金に寄せられたご寄附により、当団体は国際協力の第一歩を踏みしめることができ、マラウイの人々に支援を届けることができました。皆様からいただいたお気持ちを胸に、今後も持続可能な形で活動を継続したいと考えています。誠にありがとうございました。

現地での堆肥作りの様子



ラオスの人々への「ツボクサ」を用いたハーブ製品加工技術指導のためのワークショップ　～基礎編～

活動国：ラオス
団体名：特定非営利活動法人Mai LAOS Hokkaido

●活動報告

繰り返す主要河川の氾濫に疲弊するヴィエンチャン県ポーンホーン郡の農村の生計向上を目的に、ラオスに自生する水害に強いハーブ「ツボクサ」の高付加価値化のためのWSを実施しました。プログラムは、前半（9月）がツボクサの植物学的特徴や市場価値などの知識の講習、後半（10月）は加工作業の実習です。前半の講習を日本からのオンラインにするなど、コロナ対策にも最大限の配慮をしました。実習においては、参加者（19名）は衛生管理の徹底に努め、慣れない細密作業にも真摯に取り組み、全員が高品質な「ツボクサ茶」を完成させることができました。最終日、各自に修了証を渡した時には、感極まって涙する人もいました。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

事業終了後のフォローアップとして、自費渡航とオンラインで、自立運営を牽引するマネジメントチームの養成を続けています。本年5月からは、いよいよ首都ヴィエンチャンで「ツボクサ茶」の販売が始まります。同月に東京で開催される「ラオスフェスティバル2023」での出品も決まりました。また、地元北海道で実施した事業報告会をきっかけに、札幌の市民団体からラオスの子どもたちへの衣料品・学用品などの継続的寄附の申し出があり、その取り次ぎも始めました。私たちは本事業をとおして得た経験値と力強いつながりを糧に、今後もさらにラオスへの支援活動に尽力したいと考えています。ありがとうございました。

完成品

ワークショップの様子

フィリピン・セブの都市貧困地域でのコミュニティリサイクルへの挑戦

活動国：フィリピン
団体名：特定非営利活動法人FootRoots

●活動報告

フィリピン・セブ市の貧困地域で実施している本事業では、小規模なプラスチックのリサイクル機器を使ったプラスチックのリサイクル体験を通して、地域住民のリサイクルに対する意識の向上と定着を目指し、活動しています。これまでの活動で、持ち運びできるリサイクル機器（粉砕機と射出機各1台）を現地で製作し、それらを用いて、都市貧困地域の住民や子どもたちを対象に、リサイクル体験ワークショップ等のイベントを３回実施しました。イベントでは、リサイクル機器を使いペットボトルキャップからコースターや十字架を作る制作体験に加え、ゴミ問題とごみ分別の大切さを伝える環境教育と近隣のごみ拾い活動を実施し、地域の住民のべ100名以上に参加いただきました。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

JICA基金を通じ、多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。昨今のフィリピンでは、ゴミが深刻な問題となっています。中でもプラスチックゴミは、海に排出する一人当たりプラスチック廃棄物の量が最も多い国のひとつとなるとともに、都市部の貧困地域では、ゴミが投棄され、悪臭が漂い、生活圏から水辺などの周辺環境を汚染しています。自然が重要な観光資源でありながら、自治体による分別回収が十分に行われていないフィリピンにおいて、分別の習慣がない地域の方々に、ゴミ問題とリサイクルを自分事として捉え、体験イベントを通してプロダクトまで作れる楽しさや有用性を実感してもらえるよう活動を展開して参ります。今後ともご支援いただけますようお願い申し上げます。

リサイクル体験に参加する貧困地域の住民

ごみ拾い活動に参加する地域の子どもたち

東ティモール村落部の給水施設における住民による主体的な維持管理への意識向上プロジェクト

活動国：東ティモール
団体名：一般社団法人Carrying Water Project

●活動報告

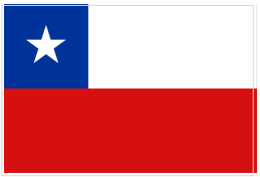
湧水のまちである福井県大野市の市民の寄附により、2016年から数年にわたり東ティモールの村に寄附された水道設備について、技術的・資金的な課題や、支援への依存や理解不足といった村人のメンタリティの観点から、その維持管理が難しい状況であることが伝わってきていました。
そのため、私たちCWPは、管路管理の専門家である管清工業株式会社とともに、2022年9月に最初の寄附対象地であったエルメラ県ウラホー村を訪問し、維持管理を担う村の水管理委員会への技術指導や、水資源や設備を自分たちで守る意識を高めるためのワークショップなど、村民らが協力し、自主的に給水施設の維持管理を行う意識を持つようになるための取組を実施しました。

現地での技術指導

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

村民との意見交換の場において、村人が負担金を払ってくれないと嘆く委員会の幹部に対して、「日本では水道の管理はビジネスとして行われている。皆さんもこれが仕事で、お金を生むとしたら是非やりたくないか、我々は皆さんとともに、そういう「水道屋さん」をこの国で生み出し、水環境を良くしていきたいと思っている」と話をしたところ、委員会の面々が「それは是非やりたい」と目を輝かせていたことが、とても印象的でした。支援をして作りっぱなしにするのではなく、人々の意識啓発や、その際の人材育成、産業育成までを見据えて、維持管理ができる環境を構築することが大切で、そのためには現地の人々の気持ちに寄り添いながら、取組を前に進めることが重要だと、改めて認識しました。

村民・水管理委員会との意見交換



チリ：Hands of Patagonia

活動国：チリ
団体名：Patagonia Expedition

●活動報告

南米パタゴニア地方は、観光を主産業としていますが、2020年初頭からのパンデミックの影響で、約２年半に渡り、地域の観光収入がほぼゼロの状態が続いていました。経済的困窮に加え、ロックダウン等の行動制限により、地域の人たちは、経済的及び精神的に、非常に追い詰められた状況にありました。
このプロジェクトでは、地域のかつての特産品である羊毛を活用し、地域の女性たちの手作業で糸撚り、染色工程を経て、「ハンドメイドの草木染め毛糸」という付加価値を高めた毛糸製品を制作しました。また、オンラインサイトを活用し、より高価格で欧米の編み物ファンに販売して収益を得るモデルの構築を目指しました。

野草や木の実など地場の素材を使って染色を試みた

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

プロジェクト開始時には、パタゴニアの人たちは既に２年近く収入がない状態だったので、プロジェクトを始める資金的余裕すら無い状態でした。いただいたご支援で、まず最初の素材羊毛を仕入れることができ、それをもとに、製品を制作し、販売して、次へつなげるサイクルを起こすことができました。
ロックダウン中の先の見えない暗い雰囲気の中で、今できることを見つけ、それでわずかでも収入を得ることができるという実感が、パンデミックに喘ぐ現地の女性たちの大きな精神的支えになったと思っています。この度はご支援ありがとうございます。

出来上がった毛糸。これはパタゴニアのタンポポの花で染色したもの

マラウイ　Project VOICE

活動国：マラウイ
団体名：Project Sally

●活動報告

Project VOICEでは、マラウイのスラムに暮らす、HIV（エイズ）とともに生きる女性たち30名へ、縫製技術とビジネスのトレーニングを提供しました。トレーニングは全20回。高校を卒業していない女性たちは、学習することに慣れておらず、最初はかなり苦戦しましたが、最終的にはバッグ製作や靴の修理など、収入に繋げられる技術を習得しました。また、ビジネスカンファレンスを行い、小規模ビジネスの支援をしている銀行やファッションに特化した市場と、女性たちが連携できる基盤作りもしました。「継続して仕事をするためには、まず健康であることが大事」という考えのもと、性教育を含めたヘルストークも行い、あらゆる側面からサポートができました。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

マラウイは、アフリカの中でも開発途上の国です。Project VOICEは、女性の立場がまだまだ低いマラウイにおいて、彼女たちが自分の意志で生きられるようになり、社会の中で自分たちの想いを声にできるようになる(VOICE OUT)ことを目指した活動です。収入は、それぞれの抱える課題の解決につながり、誇れる仕事は、自尊心向上につながると考えています。今後は、彼女たちが作った製品を、日本のみなさまにも直接手にとっていただける機会をつくる予定です。Project Sallyのウェブサイトや、代表 早水綾野のインスタグラム（ayanohayami）で情報発信していきますので、今後とも応援いただけると嬉しいです。

ミシンの使い方を習う女性たち

日頃のトレーニングの様子

ガーナ共和国セイチェレ村「村おこし」事業2022

活動国：ガーナ
団体名：国際NGO ViVID

●活動報告

ガーナの南部にあるセイチェレ村で、住民を対象に活動を行いました。この村の90％以上は農家です。地域の問題としては、①農家の農業知識や技術不足、②子どもたちの高等教育進学率の低さ、③売春の問題が深刻で、女子生徒が若くして母親になってしまう若年妊娠問題が挙げられます。そこで、①農業問題においては、農業講習セミナーを開催し、知識や技術提供を行うことで、農家一戸あたりの収入増に繋げることを目的としました。ガーナ政府農業普及員を招き、現地有志農民を一年かけて農業講習会セミナーリーダーに育成し、村の農家向けに、ニーズの高い農業講習会、座学・実習セミナーを開催しました。②教育の問題については、村内の全学校の有志の先生と当団体ガーナ人スタッフが、日本の文部科学省のキャリア教育ガイダンスを参考に、キャリア教育オリジナルカリキュラムを作成し、村の小学校から高校全学校の各クラスや保護者向けにキャリア教育セミナーを開催しました。③ジェンダーに係る問題については、国際セクシュアリティ教育ガイダンスを元に、包括的性教育の授業ガイダンス作りを現地の教師と行い、村の全学校の全クラスで性教育を実施しました。また、性教育実習として、現地の仕立て屋を巻き込み、布ナプキン作りを各学校で実施しました。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

本事業は、セイチェレ村が抱える貧困問題の原因を課題分析し、取り組むべき課題に優先順位をつけ、現地の人材の強みを活かしながら、現地の人々の中で活動の輪を広げ、当団体のスローガンにもなっているColorful Life For All（全ての人々に充実した色鮮やかな生活を提供する）を目指した取り組みです。これからも、セイチェレ村における「村おこし」事業を継続し、持続可能な地域コミュニティ開発を行って参ります。この度はご支援いただきまして、誠にありがとうございます。

農業講習会セミナー風景

セイチェレ村の小学校で性教育を終えた後の集合写真

セネガルにおけるスポーツを通じた障害者のエンパワメントと社会参加促進活動

活動国：セネガル
団体名：一般社団法人WITH PEER

●活動報告

私たちの団体では、スポーツをきっかけに、①障害者自身が自己肯定感や自己効力感を高めていくこと、②年齢、性別、宗教等を問わず、障害者と非障害者とが、当たり前に交流し、お互いを認め合い、心理的にも社会的にも距離を縮めていき、共生的な地域のコミュニティを作っていくことを、現地の障害当事者が主体となって進めていくことを支援しています。昨年末からの活動開始以来、ブラインドフットボールーコーチ育成ワークショップ、ボッチャファシリテーター育成ワークショップなどを開催してきました。その成果として、９名のボッチャファシリテーターが誕生し、彼らがボッチャのルールなどを教えられるようになりました。現在、こうして誕生したファシリテーターの活躍の場を広げるべく、聴覚障害者グループ、知的障害者を支援しているグループと連携するなど幅を広げています。

●ご寄附くださいました皆様へのメッセージ

私たちの団体は、「障害」とは、社会にある障壁や人々の態度（偏見やスティグマ）だという考え方の下、スポーツを通じてこの社会の障壁や人々の態度に働きかけています。PEERとは、同志、仲間という意味ですが、私たちにとってのPEERとは、「障害」に取り組む人々「みんな」です。その意味で、寄附を通して応援してくださる方々も、私たちにとって大切な「PEER」であり、活動を通じ、皆さんと共に、障害者の方々だけでなく、その家族や地域の方々をも巻き込みながら、セネガルの共生社会づくりに邁進してまいります。これからも応援よろしくお願いいたします。

ボッチャ体験会参加者との集合写真

ブラインドフットボール試合前の選手たち

JICA基金2022年度 収支報告

2022年度（令和4年度）寄附実績		
	件　数	金　額(円)
個人	498	1,701,000
法人・団体	62	18,478,562
合計	560	20,179,562

2022年度（令和4年度）寄附金使用実績	
	金　額（円）
配分事業（23案件）	16,198,841
運用経費 寄附金システム運営費、その他 (2022年度寄附金収入額の10%以内)	1,671,086
次年度繰越	2,309,635
合計	20,179,562

＊2022年度に活動資金として寄附金をお渡ししたのは23案件。このうち本ニュースレター2023に活動報告を掲載しているのは2021年度に採択した11案件です。

多くの皆様からのご支援に心より感謝申し上げます！

【参考】本ニュースレター未掲載のJICA 基金活用事業12件一覧

団体名	活動地	事業名
★特定非営利活動法人 POMk Project	インドネシア	インドネシア：大学－小中高等学校間の連携支援を通じた西ヌサトゥンガラ州・ロンボク島での健康教育の拡大
★カディプロジェクト	インド	インド・ビハール州における雇用創出による女性のための糸紡ぎの技術支援・就労支援事業
★遠藤　源一郎	マダガスカル	マダガスカル東部沿岸域農村における地域魅力教材づくり
★特定非営利活動法人 Support for Woman’s Happiness	ラオス	ラオス：少数民族女性と障がい女性を支える製品づくり
★認定特定非営利活動法人 あおぞら	ラオス	ラオス保健科学大学における新生児蘇生法インストラクターの人材育成プロジェクト
★特定非営利活動法人 Little Bees International	ケニア	循環型社会形成を目指したリサイクルバックの製作による貧困層の女性と子どもたちのエンパワーメント事業(2年目)
★特定非営利活動法人 日本ボリビア人協会	ボリビア	アルパカプロジェクト～ボリビアと在日ボリビア人女性の元気、生きがいのためのビジネス創出
特定非営利活動法人 アジア・ コミュニティ・センター21	フィリピン	フィリピンの路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト（Project Bamboo）～路上生活から起業家へ～
特定非営利活動法人 Little Bees International	ケニア	循環型社会形成を目指したリサイクルバックの製作による貧困層の女性と子どもたちのエンパワーメント事業(3年目)
カントリーパーク新浜（環境部）	マダガスカル	マダガスカル東部沿岸農漁村における住民による魅力ある地域資源の持続可能な利活用の促進
特定非営利活動法人 礎の石孤児院	ザンビア	ザンビア共和国: AIDS 孤児のための初等教育及び給食支援
特定非営利活動法人 しまなみアートファーム	ジンバブエ	ジンバブエにおける女性音楽教師育成を通じた女性の地位・収入向上を目指すプロジェクト

★の事業につきましてはニュースレター2022でご紹介しています。

各実施団体のより詳しい事業内容は、下記サイトの「事業完了報告書」にあります。ぜひそちらもご覧ください！

JICA基金活用事業～はじめの一歩NGOスタートアップ支援～
https://www.jica.go.jp/partner/private/kifu/09.html

世界の人びとのためのJICA基金 ニュースレター2023
発行：独立行政法人国際協力機構　国内事業部市民参加推進課
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1 竹橋合同ビル
TEL：0800-100-5931 (寄附専用ダイヤル)
https://www.jica.go.jp/partner/private/kifu/index.html